

【vol.22】7つの海ならぬ、7つのスケールポジション~その2~

こんにちは、大沼です。

7つのポジションその2、という事で、今回もやっていきましょう。

前回は4つのポジションを解説したので、
残りは3つですね。

このトレーニングに関しては何も言うことはありません。
頑張ってください。笑

1日1回でも弾いていけば、思っているよりも
ずいぶん早く覚えられるものです。

継続は力なり、ですね。

気合入れていきましょう。

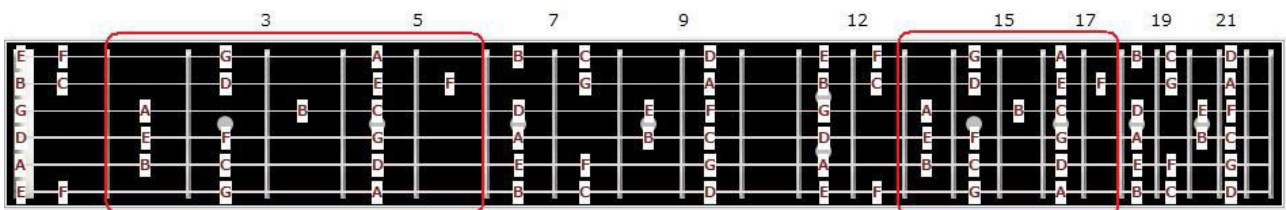
さて、前回はアイオニアン(=イオニアン、メジャースケール)、
ドリアン、フリジアン、リディアンの4ポジションでした。

今回は残りの、ミクソリディアン、エオリアン、
ロクリアンの3ポジションを覚えます。

例のごとく、名前とスケールの関係性は今は深く考えなくて良いので、
Cメジャースケール上の全7ポジションを覚える事がメイン、と置いてください。

そのついでに、各ポジション(スケールの形)の名前も覚えている、と。

では、5つ目のポジションはこちらです。



ここは、CメジャースケールのG音からスタートするポジションになりますね。

15フレットの場所でも弾けますが、あまりにハイポジションすぎると少し弾きにくいので、1オクターブ下げて、3フレットのG音からスタートしましょう。

The image shows a musical score for guitar in 4/4 time, starting on the 3rd fret. The score is written for a single guitar (S-Gt) and includes a treble clef staff with a dynamic marking of 'mf' and a corresponding TAB staff with fret numbers. The first system covers frets 1-5, and the second system covers frets 3-7.

この、ギター特有の「1オクターブ上げたり下げたりしてもポジションの形が変わらない」という感覚を早めに身につけてくださいね。

練習法としては、何でも良いので、弾けるフレーズをオクターブで上げ下げして、色々なポジション(指板上の位置)で弾いてみることをお勧めします。

どんなものでもOKです。バックングでも、ソロでもなんでも。

気軽に実験してみてください。

さて、スケールの名前ですが、このCメジャースケールのG音から始めるポジションは、ミクソリディアンスケールのポジション(音の並び)となります。

では次、6つ目にいきましょう。

The image shows a diagram of a guitar fretboard with fret numbers 3, 5, 7, 9, 12, 15, 17, 19, 21. The notes are color-coded: red for G, blue for A, green for B, yellow for C, and purple for D. Two red boxes highlight the positions starting on the 3rd fret and the 15th fret.

ここもハイポジでもいけますが、練習しにくいのでオクターブ下げる、と。

練習譜例はこちらです。

The image shows a musical score for S-Gt (Solo Guitar) in 4/4 time. The score is divided into two systems. The first system has two measures. The second system has three measures. The melody is written in treble clef with a dynamic marking of *mf*. The guitar tablature is written below the staff, showing fret numbers and fingerings. The first system's tablature is: 5-7-8, 5-7-8, 5-7, 4-5-7, 5-6-8, 5-7. The second system's tablature is: 8-7-5, 8-6-5, 7-5, 4-7-5, 8-7-5, 8-7, 5.

この A 音から始まるポジションは、エオリアンスケールのポジション(音の並び)になります。

さて、ここは、以前、C メジャースケールのポジションをいくつか覚えた時に、すでにやっていますね。

あの時は C 音から始めて、C 音で終わりましたが、今回は、A 音から始めて A 音で終わります。

おそらく、C 音基準の時は明るいスケールの様に感じる(聴こえる)はずで、A 音基準の時は暗いスケールの様に感じる(聴こえる)はずです。

これも、同じようなことをペンタの時にやりましたね。C メジャーペンタと A マイナーペンタはポジションの場所はまったく同じものでした。

実はこの、A 音から始まるポジションは、エオリアンスケールの他にも、ナチュラルマイナースケールのポジションとも言える(呼べる)のです。

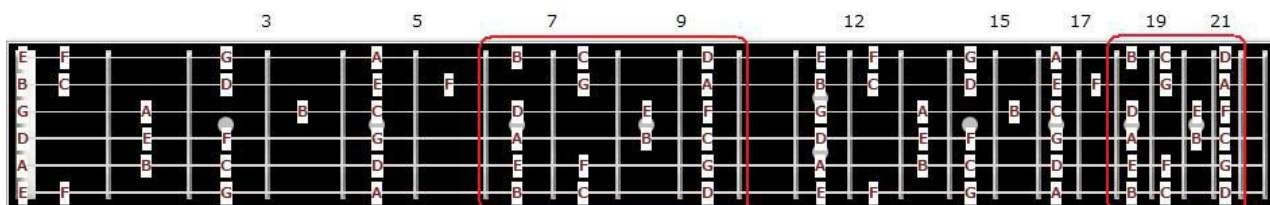
楽典的に、メインで扱うマイナースケールは 3 種類あるのですが、なにが「ナチュラル」なのかは後々解説しますので、今は単純に、これが基本となるマイナースケールなんだ、と思ってもらえれば OK です。

と、言うことで、CメジャーペンタとAマイナーペンタが、
 まったく同じポジションで対になっていたように、
 このCメジャースケールと、Aナチュラルマイナースケールも対になっています。

2つのスケールはまったく同じポジション(形)って事ですね。

その意味と理由については、マイナースケールの解説のときにお話するので、
 少々お待ちください。(※通常、「マイナースケール」と言う場合、
 この「ナチュラルマイナースケール」の事を指します。)

では最後、7つ目にいきましょう。



ここもローポジションの方で弾きます。

ここの、CメジャースケールのB音から始まるポジションは、
 ロクリアンスケールのポジション(音の並び)になります。

形としては、一つ目のアイオニアン(メジャー)スケールと同じですが、
 スケールとしての意味が違ってきますので、別なものとして覚えましょう。

さて、これで7つ全てのポジションの紹介が終わりました。

あとは、日々の練習の中で、繰り返し弾いて覚えてください。

聞きなれないスケール名が7つも出てきたので、
初めの内は色々と混乱する部分もあるかと思います。

一応、7つのスケール名が覚えやすい(?)
語呂合わせみたいなものがあるので紹介しますね。

イオニアン(アイオニアン、メジャースケール)
ドリアン
フリジアン
リディアン
ミクソリディアン
エオリアン(ナチュラルマイナースケール)
ロクリアン

の頭文字をとって、

『井戸振り見えろ』(振り返って後方にある井戸を見るようなイメージ)

という、語呂合わせなのですが、僕が中高生くらいの頃に読んだ、
初心者向けの理論書に書いてあったものだと思います。

僕も昔、これで覚えたので、これが覚えやすいと感じる人は、
活用してください。

さて、話は変わりますが、例えばギター上級者が、
指板上で弾く音を間違えないのは、その曲の中で鳴らして良い音がわかっているのは、
このようなスケールポジションを全て覚えているからです。

誰も、弾いているうちに何となくわかってきたわけではなく、
単純に、地道に1つずつ覚えていった成果です。

おそらくあなたも、今まで覚えてきたペンタやらなんやらで、
その実感があることでしょう。

それを積み重ねていくことによって、ギターを自由に弾きこなせる、
というレベルに到達できます。

最初の方にも書きましたが、こういったものは、
もう、気合で覚えてもらうしかありません。笑

慣れるまでが大変ですが、その後は、何をするにも楽になってくるので、
頑張ってください。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼